

夢のコラボが実現～「日米親善春祭り」で募集広報活動

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 明神忠雄3等海佐）は、4月19日（土）、海上自衛隊と在日米海軍が共同使用する厚木基地を一般開放して開催された「日米親善春祭り」において募集広報活動を実施した。当日は夏を思わせる暑さの中、日米の航空機の地上及び飛行展示のほか、ステージイベントや飲食ブースの出店などが行われ、航空ファンや家族連れなど約6万2千人が来場した。

神奈川地方協力本部ブースでは、自衛隊の活動のパネル展示や募集相談コーナーを設置。県内各所から広報官が多数集結し、隊友会及び募集相談員の方々の協力も得て、自衛官の採用制度説明などの広報活動を行った。また、海上自衛隊第4航空群の支援を得て、募集対象者に対する新管制塔見学や広報資料館見学を実施し、航空管制の仕事について説明した。

ブース内の募集相談コーナーは早々に満席となり、相談者からは「どのような仕事があるのか」「体力に自信は無いが大丈夫か」「休みは」など自衛隊に関する質問のほか、「将来、自衛隊を受験しようと思っているが、どのような準備が必要か」「入隊する場合、どのような種類があるのか」など入隊を見据えた質問も多数あった。広報官は一つ一つ丁寧に回答し、相談者からは「ぜひ、自衛隊を受験したい」「頑張つて勉強する」など前向きな意見が聞かれた。

応援に駆け付けた神奈川地本の大谷本部長から直接説明を受けた相談者は、「悩みが解消し、来て良かった！」と笑顔で話し、周囲の広報官がタジタジとなる場面も見られるなど、募集・相談コーナーは大きな盛り上がりを見せた。この日は神奈川地本キヤラクター『はまちゃん』と『ボスにゃん』こと大谷本部長との夢のコラボも実現し、ブース周辺にはたくさんの人だかりができた。

厚木募集案内所は、「今後も自衛隊の認知度向上に努め、多くの方に自衛官を職業選択の一つとしていただけるよう募集広報活動を続けていく」としている。



視察を受ける広報官（緊張！）



満席の募集・相談コーナー



『ボスにゃん』（大谷本部長）も自ら入隊制度説明



来場者で賑わうブース

相模原ビジネス公務員専門学校で制度説明会を実施

自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 栗野晃光3等陸佐）は4月21日（月）、相模原ビジネス公務員専門学校（相模原市）において、自衛隊の制度説明会を実施した。これは学校の依頼に基づき、就職を1年後に控えた2年生を対象に職業の選択肢のひとつとして自衛隊を紹介しているもので、昨年に引き続き2回目の実施。今回は同事務所広報官の渡邊3等空曹が講師を務め、6名の学生が参加した。

最初に、自衛官初任給の増額、各種手当の新設・増額、勤務環境、福利厚生などの処遇改善をはじめ、部隊等における日常の業務などを説明した。その中で、「自衛隊は『自己完結型の組織』だから様々な機能が必要である」とことについて航空基地を例に説明し、多くの職種・職域があることを紹介した。そして部隊での勤務の内容及や休暇の取得状況などについて広報官が自らの経験を基に具体的に話すなど、自衛隊に対する理解促進に努めた。

続いての質疑応答では、「自衛隊入隊の動機を聞きたい」、「自分が希望する職種・職域に行けるのか」などの質問が挙がり、自衛隊に興味を示す学生の姿が見られた。また、担当の先生からも「わかりやすい説明で、私自身も自衛隊に対するイメージアップが図れた」との感想もいただいた。

相模原地域事務所は「今後もあらゆる機会を通じて、自衛隊に対する理解を深めていただくとともに、ひとりでも多くの方に自衛官という職業を選択肢のひとつとして捉えてもらえるよう精力的に活動していく」としている。

